第２章　市民意識調査の結果からみえる本市の食育に関する現状

１．食育に関する市民意識調査の概要

「第二次かごしま市食育推進計画」の目標値の達成状況や食育に関する現状、課題を把握し評価を行うとともに、次期食育推進計画策定の基礎資料として活用するために、市民意識調査を実施しました。

（１）調査地域

鹿児島市全域

（２）調査方法

郵送調査

（３）調査期間

平成２９年７月３１日(月)～９月１５日(金)

（４）抽出方法

下記の区分ごとに無作為抽出

（５）調査対象者及び回収結果等

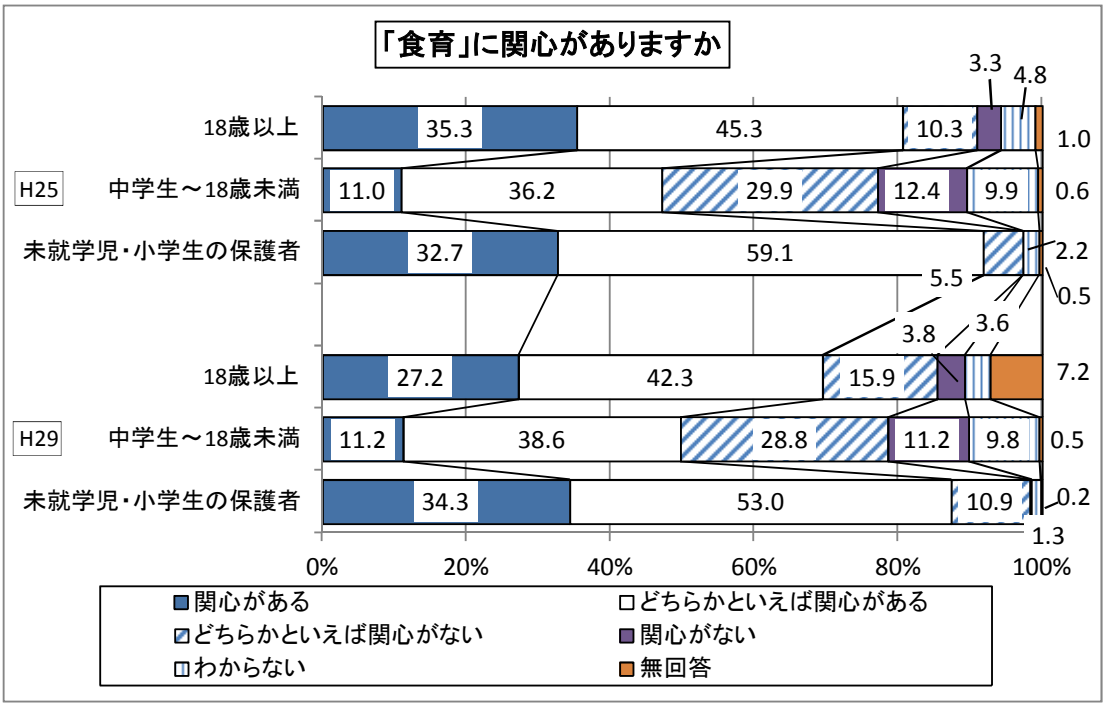
対象者	対象者数	回収数	回収率	記入方法
１８歳以上の市民	2,250	1,063	47.2%	自記入式
中学生から１８歳未満の市民	500	215	43.0%	自記入式
未就学児・小学生	750	460	61.3%	保護者による回答
合計	3,500	1,738	49.7%	

※市民意識調査結果については、比率はすべて百分比で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。このため、百分比の合計が 100%にならないことがあります。また、複数回答の設問は、全ての合計が100%を超えることがあります。

２．現状

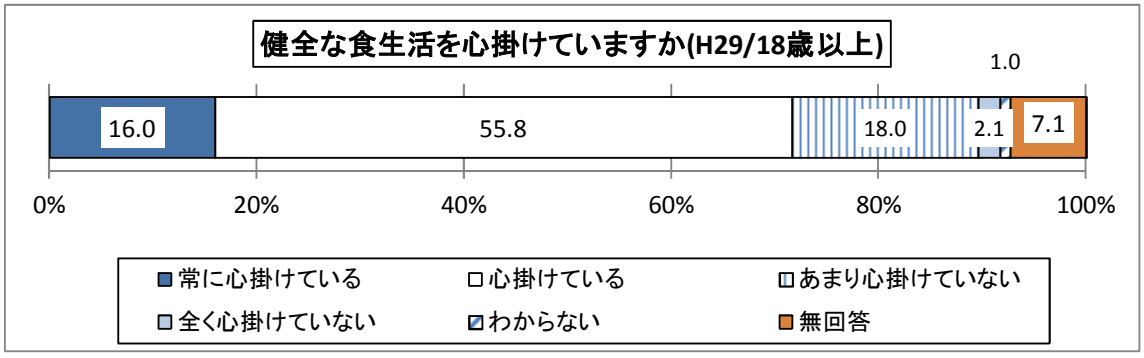
（１）食育への関心について

食育に「関心がある」及び「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、平成２５年度調査（以下「２５年度」という。）と比較すると、中学生～１８歳未満を除いて減少しています。世代別では、中学生～１８歳未満が４９．８％と最も低くなっています。



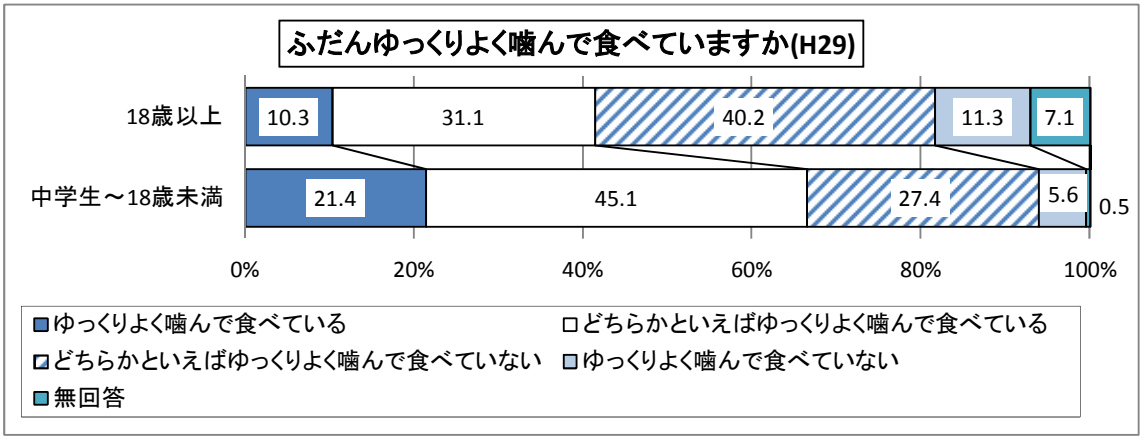
（２）健全な食生活の実践について

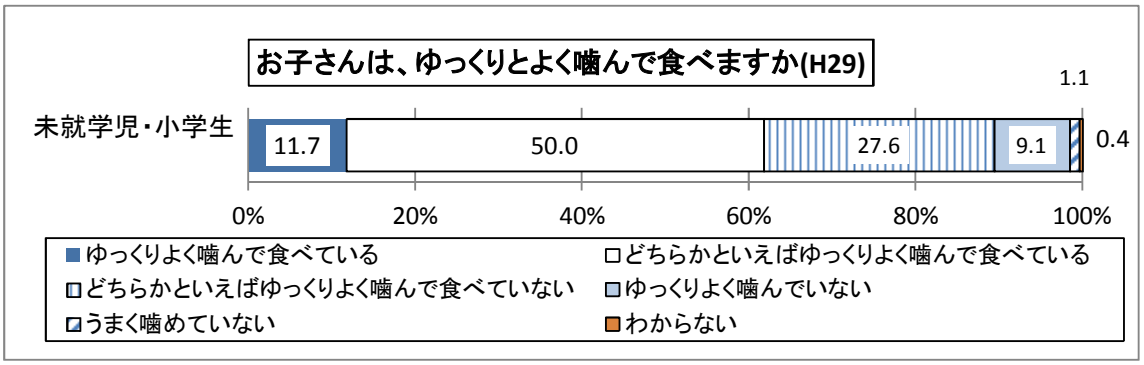
健全な食生活を「常に心掛けている」及び「心掛けている」と回答した人の割合を合わせると、７１．８％となっています。



（３）噛むことについて

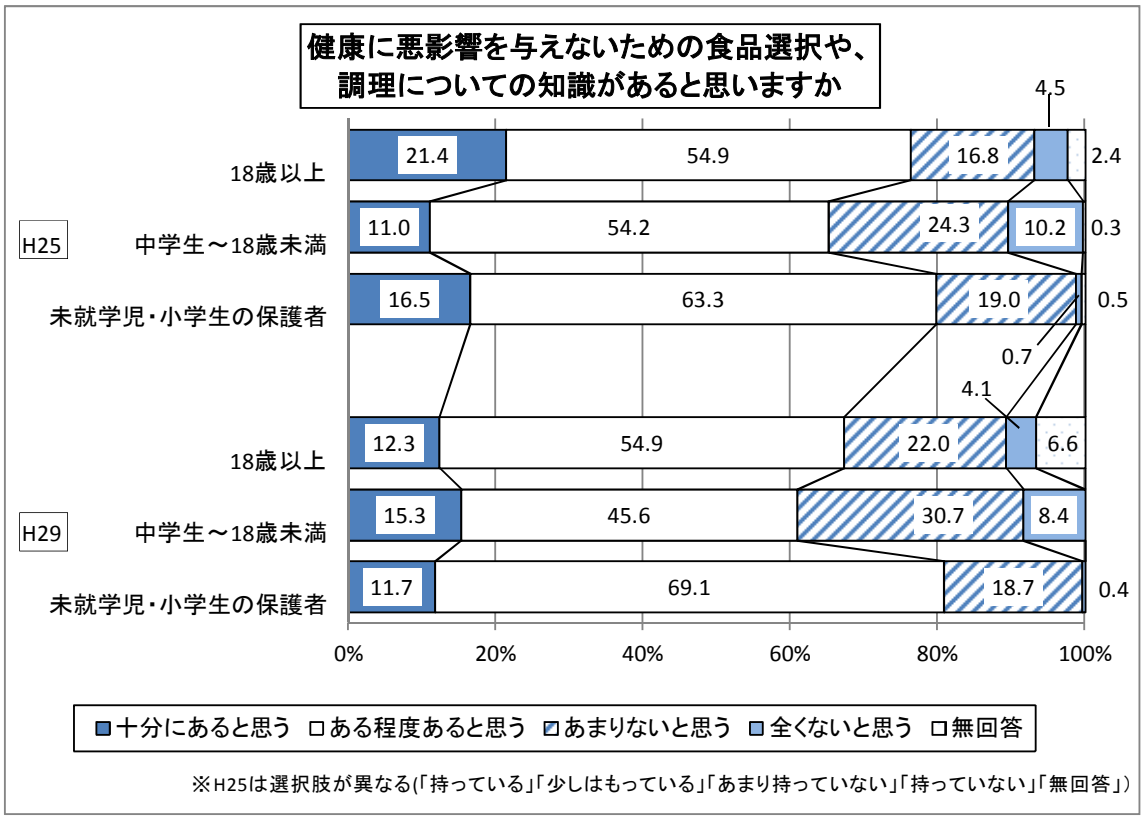
「ゆっくりよく噛んで食べている」及び「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」と回答した人の割合は、１８歳以上で４１．４%、中学生～１８歳未満で６６．５%となっており、未就学児・小学生では６１．７%となっています。





（４）食品の選択・調理方法についての知識の有無について

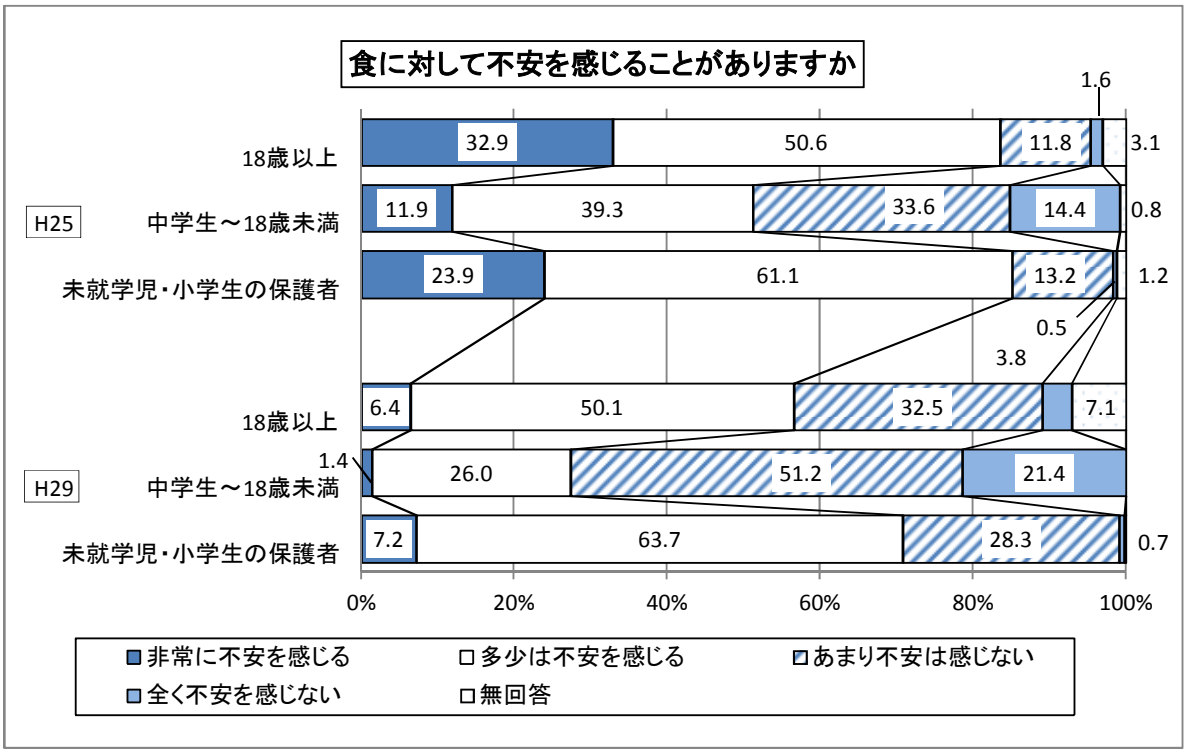
食品の選択・調理方法についての知識が「十分にあると思う」及び「ある程度あると思う」と回答した人の割合は、２５年度と比較すると未就学児・小学生の保護者を除いて減少しています。

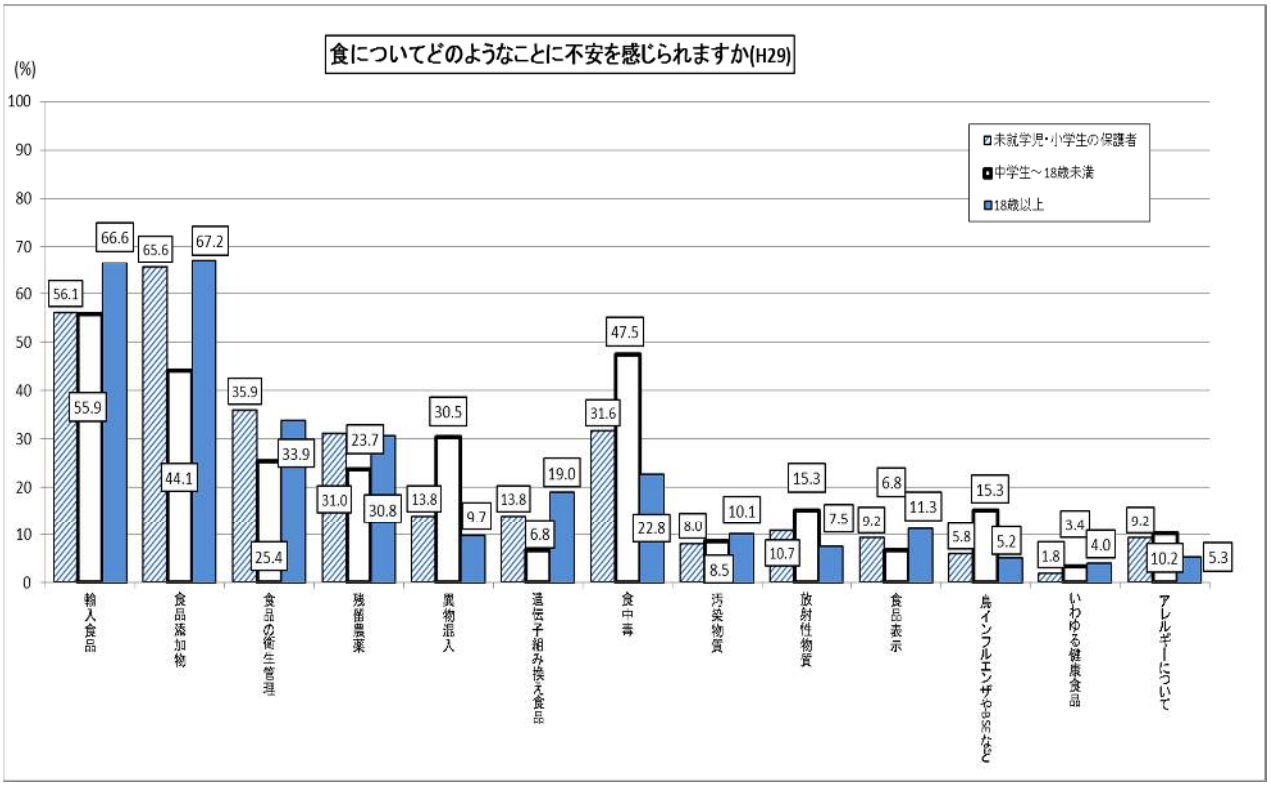


（５）食に対する不安について

食に対して「非常に不安を感じる」と回答した人の割合は、２５年度と比較すると、全世代で減少しています。

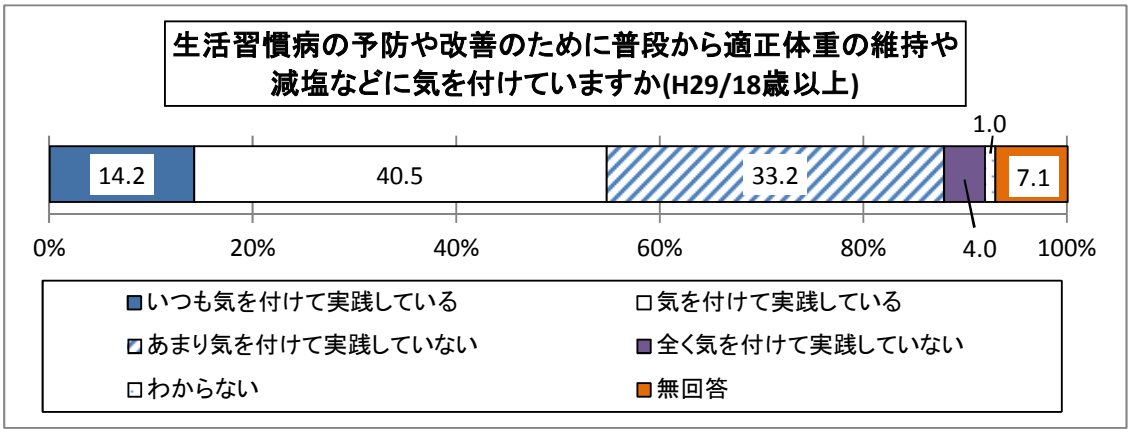
また、不安の事由については、「輸入食品」「食品添加物」と回答した人の割合が多くなっています。





（６）生活習慣病予防・改善のための実践について

生活習慣病の予防・改善のための実践を「いつも気をつけて実践している」及び「気をつけて実践している」と回答した人の割合は５４．７％となっています。

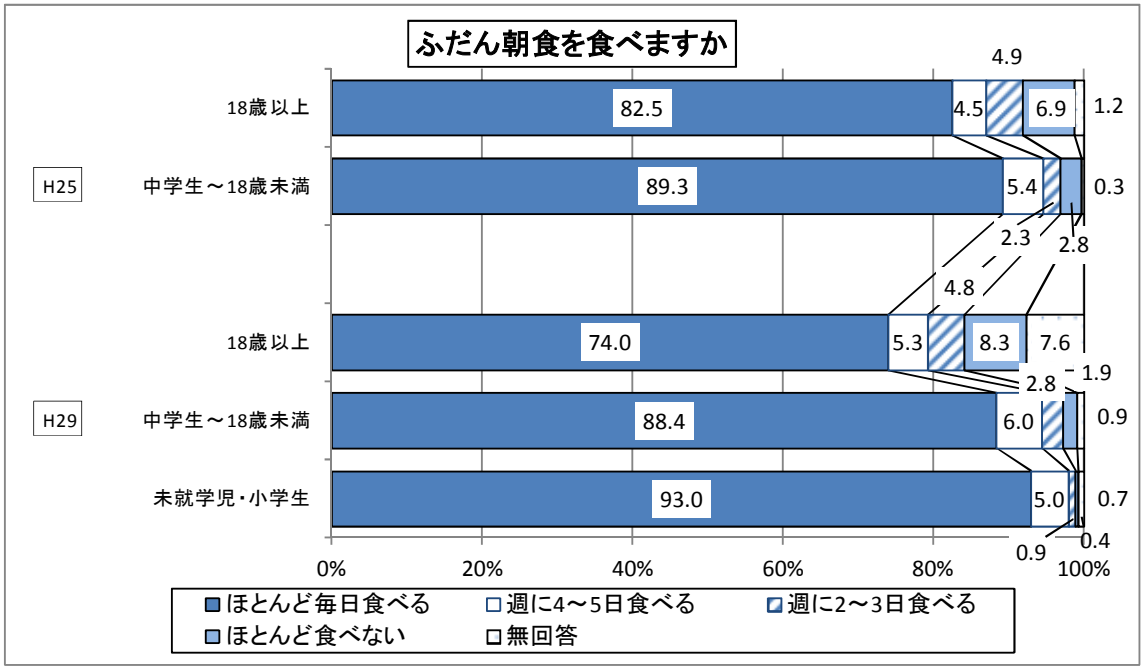


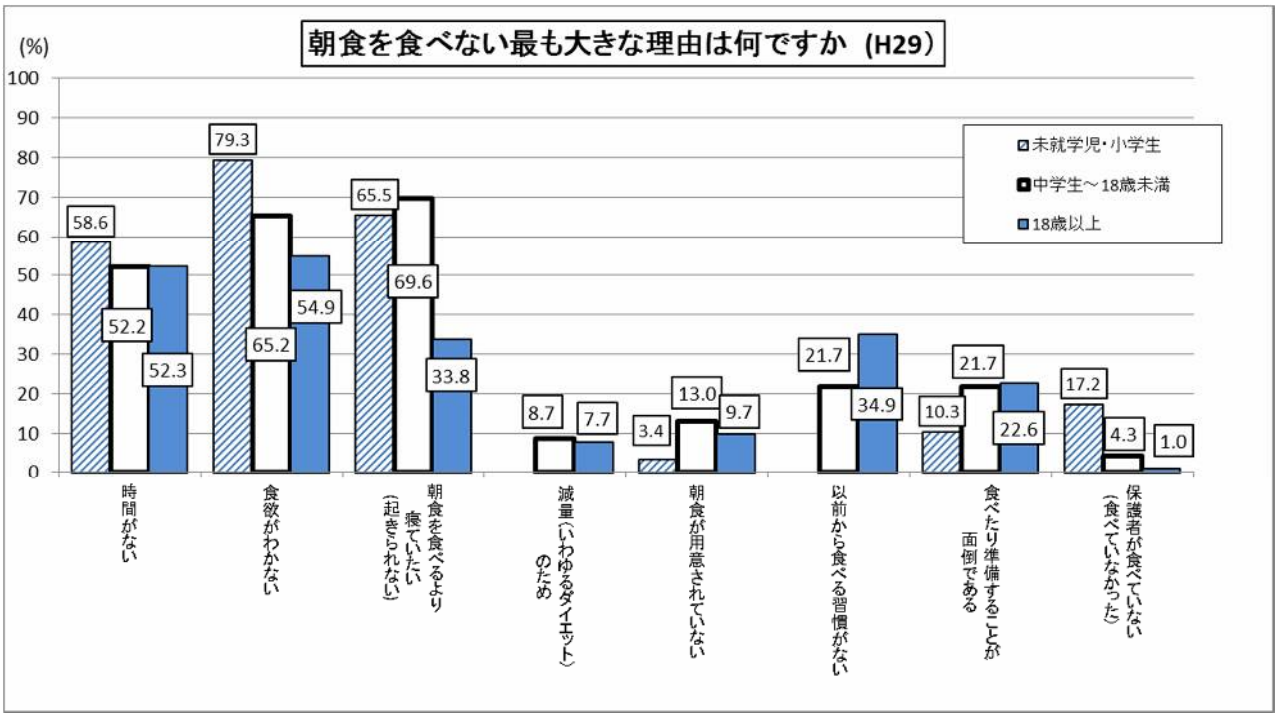
（７）朝食の欠食について

朝食を「ほとんど食べない」と回答した人の割合は、世代が上がるにつれて増加しています。

また、欠食理由については「時間がない」「食欲がわかない」「朝食を食べるより寝ていたい（起きられない）」と回答した人の割合が多くなっています。

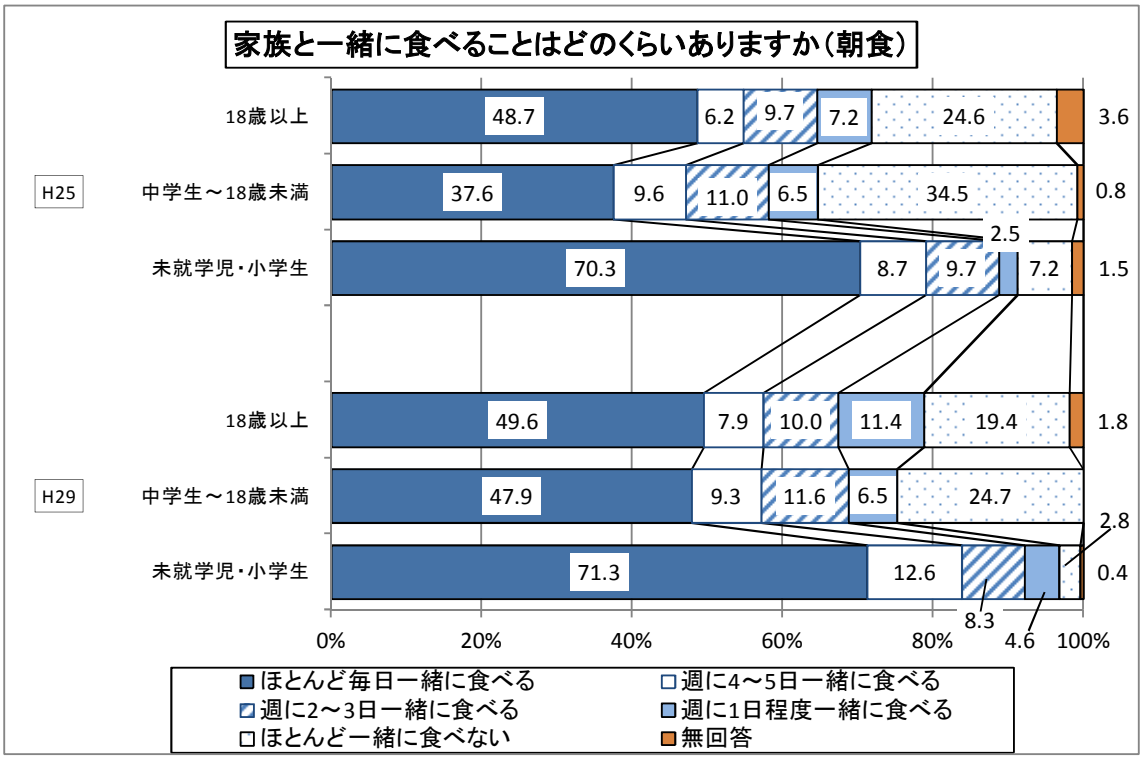
なお、「食欲がわかない」と回答した人の割合は、年代が上がるにつれ、減少しています。

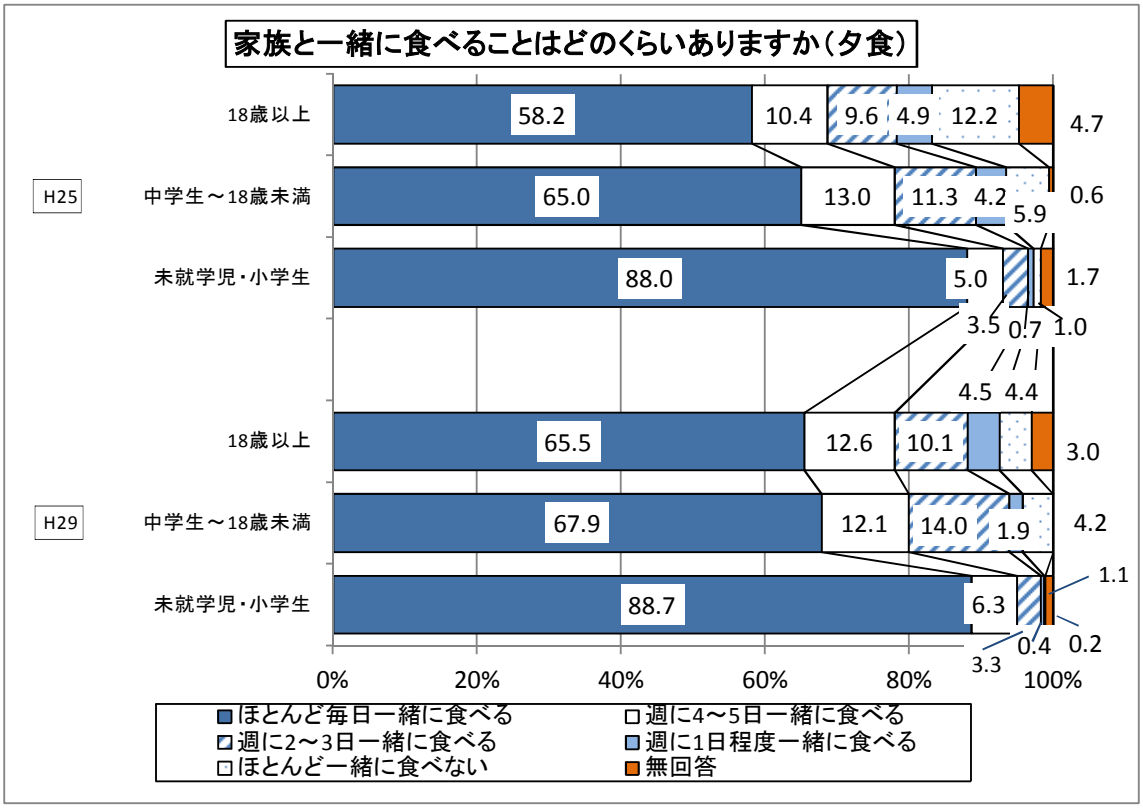




（８）共食※①について

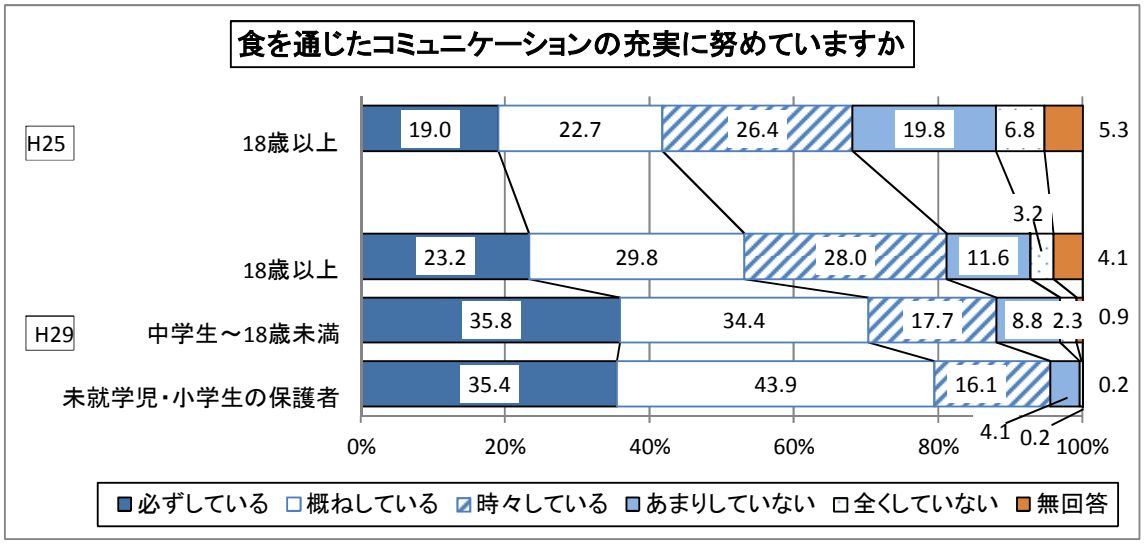
家族と食事を「ほとんど毎日一緒に食べる」と回答した人の割合は、朝食に比べ、夕食で多くなっています。また、２５年度と比較すると、朝食・夕食ともに全世代で増加しています。





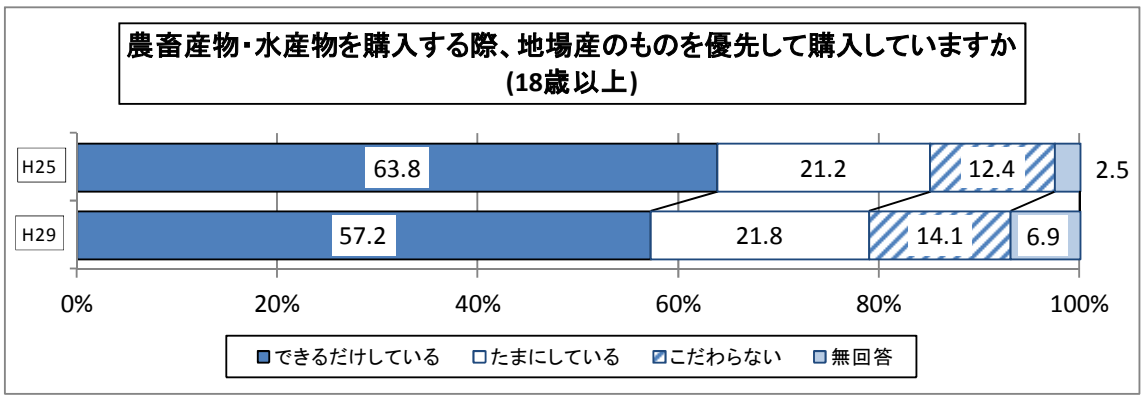
※①共食：誰かと共に食事をし、コミュニケーションを図ること。

食を通じたコミュニケーションの充実についても、２５年度と比較すると「必ずしている」、「概ねしている」及び「時々している」と回答した人の割合は増加しており、８割を超えています。



（９）地場産物※②について

地場産物の購入を「できるだけしている」と回答した人の割合は、２５年度と比較すると減少しています。

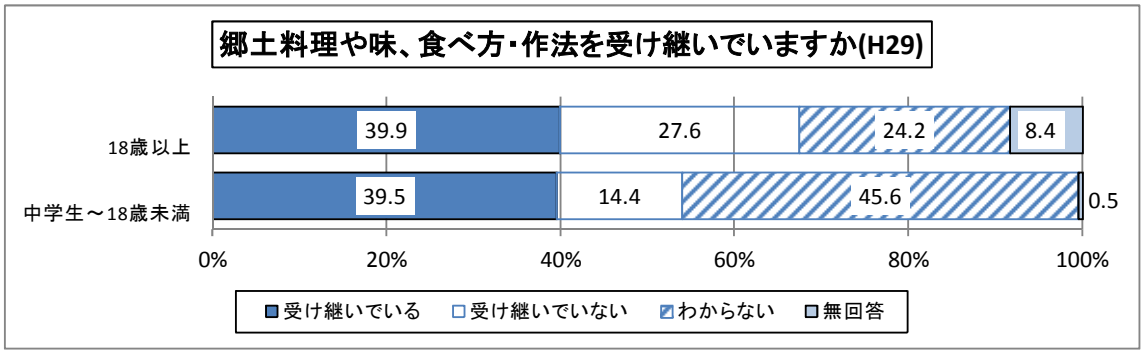


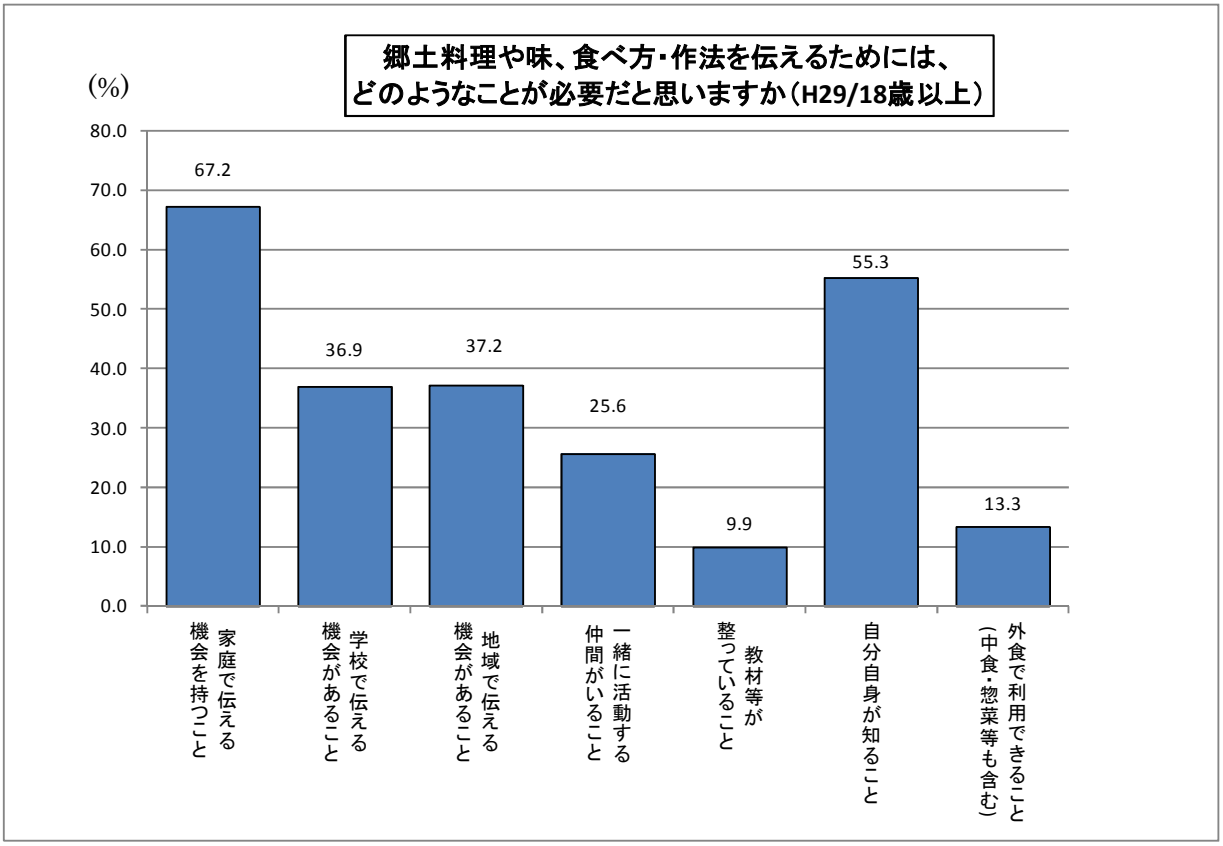
※②地場産物：鹿児島県で生産、収穫、水揚げされた食材。

（１０）郷土料理・伝統食について

郷土料理や伝統食を「受け継いでいる」と回答した人の割合は、世代に関わらず、４割程度となっています。

また、食文化を伝えるために必要なこととしては、「家庭で伝える機会を持つこと」と回答した人の割合が６７．２％と最も多く、次いで「自分自身が知ること」が５５．３％となっています。

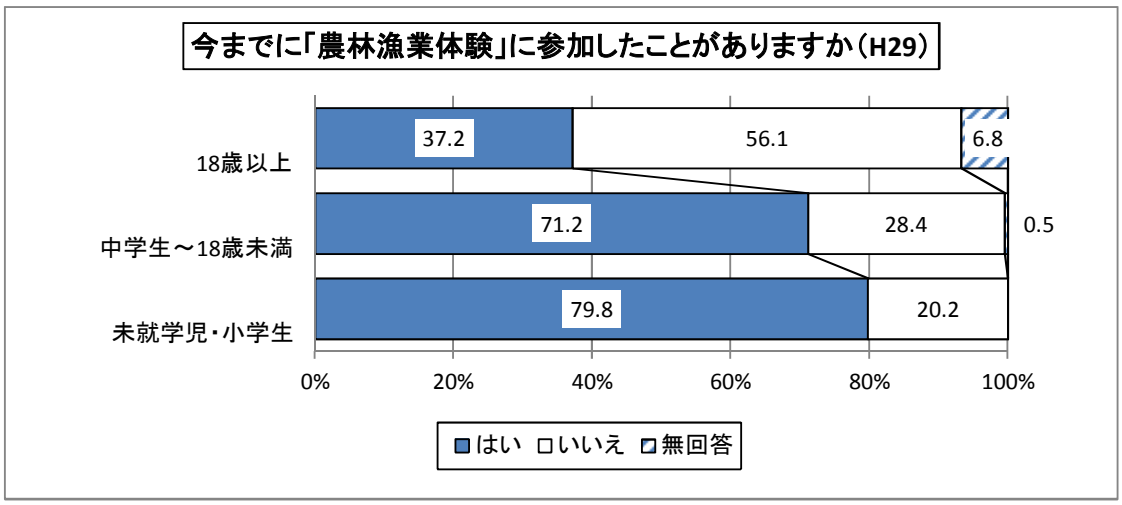




（１１）農林漁業体験について

農林漁業体験の参加が「ある（はい）」と回答した人の割合は１８歳以上では３７．２％となっています。

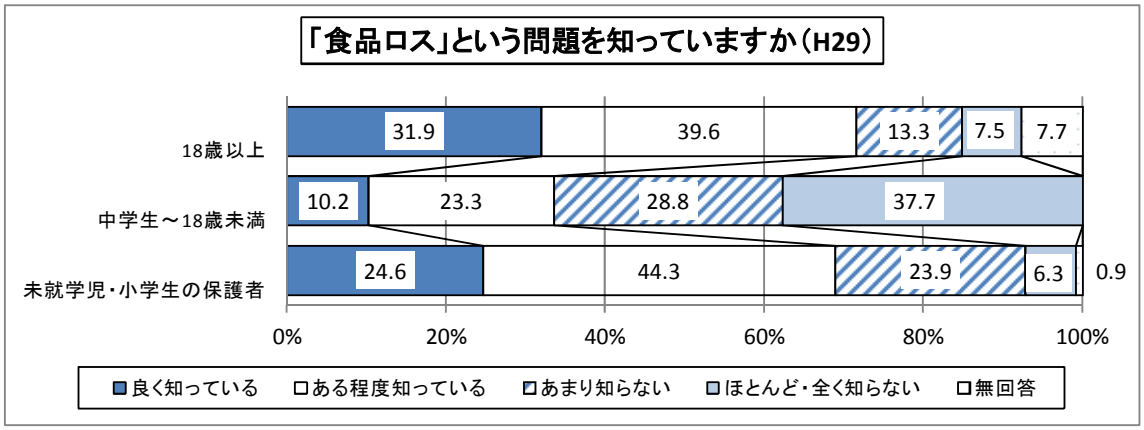
また、世代別で見ると、世代が上がるにつれて、体験をした人は減少しています。

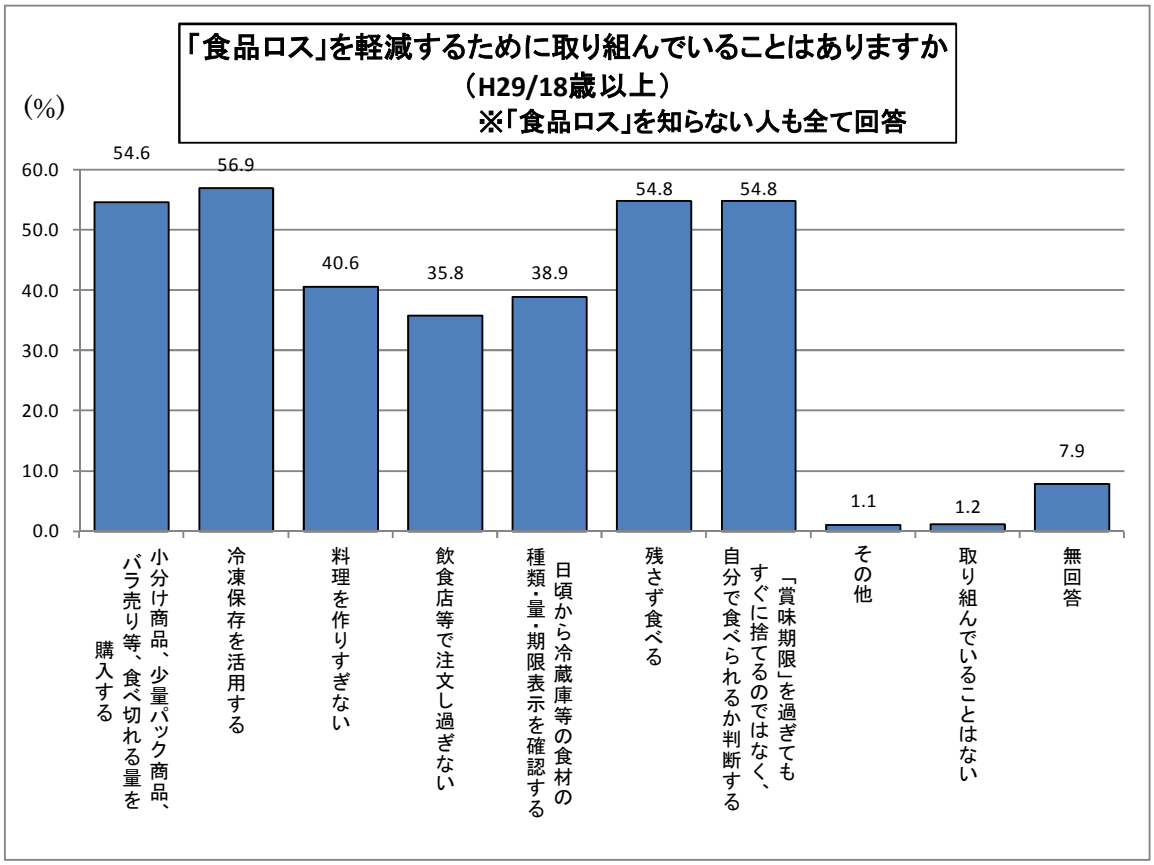


（１２）食品ロス※③について

食品ロスを「よく知っている」及び「ある程度知っている」と回答した人の割合は、１８歳以上では７割を超えていますが、中学生～１８歳未満では「あまり知らない」及び「ほとんど・全く知らない」と回答した割合が６割を超えています。

また、食品ロス軽減のための取組については、「取り組んでいることはない」の１．２％と「無回答」の７．９％を除いた９０．９％が何らかの取組を行っていると回答しています。





※③食品ロス：食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。